

<金標準、テクニカルは7月の再来で大幅調整の予兆・・・>



(出所：オアシス)

雇用統計で非農業部門就業者数が事前予想の 14.8 万人増を大きく上回る 25.4 万人増、失業率は前月の 4.2%から 4.1%へ改善されるなど大幅利下げ観測は後退を示し、また消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）も若干インフレは高止まりを見せ、11月のFOMCにおける0.5%の利下げ思惑は消え、0.25%の利下げ確率は低下している。

またグールズビー・シカゴ連銀総裁やウィリアムズ・NY 連銀総裁、パーキン・リッチモンド連銀総裁などインフレは引き続きFRBの目標に向かっていているため利下げ継続は示しているが、ボスティック・アトランタ連銀総裁は、11月に金利据え置きの可能性に触れている。また中国人民銀行は、9月末時点の中国の金保有量は7280万トロイオンスと発表し、5ヶ月連続で購入を見送っており、5月まで18ヶ月連続で購入していた動きから一転している。ただFRBの利下げ観測が後退した恩恵で為替市場では円安が進み、金標準先物は12785円まで高値を試すも、為替オンリーの相場だけに7月の再来に注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACDが切り上げ、シグナルも切り上げている。RCIでは短期が維持しながら、長期も維持している。ただMACDもRCIも7月同様にMACDの乖離がなく、RCIでは短期が長期を下回るなど修正波動に備えるのが妥当に思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,452,000 円(2024 年 10 月 15 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2024 年 10 月 15 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>